

ニシローランドゴリラの森へ

2009年の11月、初めてガボン共和国に行った。

ムカラバ・ドウドウ国立公園で進められていた、山極寿一さんのニシローランドゴリラの研究プロジェクトに参加することになったからだ。

ガボンでのゴリラ研究の拠点は、国立公園内にくつももある大きな森の一つ、ブチアナの森のど真ん中のキャンプ地だった。チンパンジー研究を行ったギニアのボツソウ村では、一応、村の中にあるボツソウ環境研究所の実験室が拠点だったが、ガボンの森にはそのような場所はない。建物を建てられないので、食事やトイレ、実験も、打合せも、すべてラフィアヤシの葉で葺いた屋根の下（柱と屋根だけで、ほとんど野外と同じ）で行う。もちろん全員、テントで寝泊まりする。まるでゲリラの基地である。

毎朝、テントからはい出すと、近くの川で顔を洗い、朝ごはんを食べる。7時には、キャンプ地を出発して、ゴリラの群れを探しはじめる。そのころは、パパ・ジャンティと



森の茂みの中、シルバーバックが現れる

名づけられたシルバーバックに率いられた大きな群れが、キャンプ地の周辺に滞在していたので、森の中のけもの道をゆつくり歩いてゴリラたちを探した。シルバーバック（銀色の背中）とは、成熟したオスゴリラのことだ。オスのゴリラは大人になると背中（背）の毛が白くなってくるので、そう呼ばれている。

陽の光が明るくまぶしいサバンナに比べると、森の中は薄暗い。雨が降ると、森の中にはいくつもの小さな川と池が現れるので、長靴を履いてジャバジャバと進む。雨季の森には、いろいろな果物がなり、たくさんの動物たちが集まってくる。ゴリラばかりでなく、チンパンジーやマンドリルのような大型のも